「妊産婦のかかえている問題についての検討」

—— 助産婦カルテ作成に向けて ——

産科分娩部　発表者　久保田 裕 子

池野位子　松本あつ子　山口文子　中嶋まさ子
原田まさみ　原田由紀　桜井恵理子　宮脇真弓
伊藤寿美　木南園子　中嶋　薫　池田紀美子
小林澄子　柳原富美子

Ⅰ　はじめに

かつて開業助産婦は地域において個別性のある援助を行っていた。しかし今日，施設内分娩が99.7%[1]を占める中，妊産婦に対する援助の方法・質は大きく変化している。施設内においては多くの人による妊産婦の一面のみの断片的な援助になりがちである。近年山内幸子ら[2]の「受持制母子看護の評価」また岩井夏子ら[3]の「助産婦カルテを作成して」など多くの場で継続看護が検討されている。

当科においても外来と病棟に分割され，継続性のある援助がなかなかできにくいため，その必要性を感じていた。

今回妊産婦のかかえている問題について明らかにし，継続的な援助のひとつとして助産婦カルテの作成に向けて検討したので報告する。

Ⅱ　研究目的

1）継続看護のため継続症例，退院後の電話訪問，1か月健診時の面接より妊産婦のもつ問題を明らかにする。

2）妊産婦の求めているものを知り，助産婦カルテを作成し継続看護に生かしていく。

＝用語＝

継続症例：妊娠から産後まで受持助産婦をきめ看護にあたったもの。

妊 産 婦：当院で分娩した妊娠中から産後1か月までの婦人。

助産婦カルテ：妊娠中から産後にかけて継続的に記録できる記入用紙

Ⅲ　研究期間

昭和61年8月～昭和62年6月

Ⅳ　研究方法

1）継続症例：無作為に選んだ　11例

外来受診時の指導　分娩の立合（可能なかぎり）また産後に電話訪問あるいは家庭訪問を行う。

2）アンケート調査：外来通院妊婦　43例

（妊娠中助産婦に何を聞きたいか）

当院で分娩した褥婦　15例

（妊娠中助産婦に何を聞きたかったか）

3）退院後分娩介助者による電話訪問　31例

例

電話訪問日：退院後	7日以内	13名
	8～14日	12名
	15～30日	2名
	1か月以上	4名

4）面接調査：昭和61年10月13日～昭和62年6月22日　対象65名

（小児科1か月健診受診者238名中）

隔週月曜日，受診前の待ち時間に無作為に行ったものである。

V　結　果

継続症例についての簡単な紹介は資料2を参照，なお家庭訪問ができなかった症例には電話訪問を行っている。

妊娠中継続症例のかかえていた不安・問題は表1の通りであり，分娩・児について，またその時の状況に対するもの等多岐にわたった。

〈表1　妊娠中継続症例がかかえていた不安，問題点〉

不安，問題点	人数
児が正常であるか，大きくなっているか	8
分娩時呼吸法がちゃんとできるか	8
上手に分娩できるか	7
いつ頃入院したらよいか	6
陣痛はどのようにくるか	5
一人ではとても不安	5
おなかがはる	3
腰痛がある	2
妊娠中毒症があり不安（浮腫）	2
体重が増えて困る	2
その他	12

〈表2　退院後継続症例がかかえていた不安，問題点〉

不安，問題点	人数
ミルクが足りているか	8
児体重が増加しているか	7
授乳について	6
室温について	6
同じ方向ばかり向いている	4
黄疸がある	4
排便回数について	3
児がねむらない	3
児の鼻がつまっている	2
時々ミルクをはく	2
臍出血がある	2
落屑がある	2
検診はいつごろか	2
車はいつからのれるのか	2
その他	7

退院後については，表2のようにほとんどが児に関することである。

なお多くの不安，問題は家庭訪問・電話訪問・1か月健診で解決されている。

アンケート調査

〈表3　妊娠中，助産婦から聞きたいこと〉

妊　娠　中　(45名)		分　娩　後 (15名)	
妊娠中，日常生活の心得	16	妊娠中の心得	5
栄養のとり方について	6	日常生活の注意	3
分娩時の心得について	4	乳房管理	3
入院の時期について	3	授乳について	2
育児の心得について	3	陣痛について	2
児の発育状態	3		
乳房管理	2		
入院生活について	2		
陣痛について	2		
その他	1		
無回答	6		

日常生活又分娩時の心得等，保健指導を望んでいる。

電話訪問

〈表4　相談内容及び問題点〉

褥婦自身に関する事		児に関すること	
乳房トラブル	5	湿疹，汗疹	11
悪露	3	臍部	6
排泄	3	おむつかぶれ	5
疲労感	2	排泄	3
睡眠不足	1	呕吐	2
その他	5	鼻閉感	2
		その他	3

児に関する相談が多い。入院中にかかえていた問題はひき続き家庭でもみられていた。電話訪問に対するとまどいをもったケースが1例あった他は，受入れは良かった。

1か月健診

〈表5〉

体重増加		平均	最大	最小
(g/day)	母乳のみ	45.4	77.9	14.0
	混合栄養	43.1	70.8	7.0
	人工栄養	41.4	50.0	27.0

健診時異常	
心雑音	14名
体重増加不良	4名
先天性股関節脱臼	2名
眼脂	3名
その他	9名

健診時面接にての問題	65名
湿疹，汗疹	29名
おむつかぶれ	12名
排泄	9名
鼻閉	8名
呕吐，溢乳	7名
室温，環境について	3名
母乳不足の不安	2名

健診時面接では，現在の問題点，心配事についての質問が多く児に関することがほとんどである。乳房に関しての相談は少なかった。

Ⅵ 考　察

継続症例を受け持つなかで，妊産婦の抱く不安・問題点を明らかにしつつその都度相談・指導を行ってきた。その結果「安心できた」「いつでも相談できると思った」「心強かった」等の言葉がきかれ，症例すべてから受持ってもらってよかったという評価を得ることができた。これはいつでも自分を良く知っていてくれる者に相談できるという大きな安心感があったからではないかと思う。

妊娠のアンケートから助産婦には，日常生活や分娩時の心得など多くは保健指導を望んでいることがわかる。継続症例においては，より具体的な保健指導を望んでいる。これは一般的な指導が理解され，こちらからの積極的な働きかけにより個別的な問題が明らかになったためと考える。

お産の学級等で，ある程度の指導は行えても外来受診時に個々に対する十分な相談・指導は難しい。また行っていてもその内容が次回の検診・入院時へと継続されにくい。

継続症例として受持制を行うことは，妊産婦を十分理解できると同時に双方の満足感も高いが，三交替のなかでの施行は困難である。しかし継続することの必要性は，この結果より痛感できた。

電話訪問からは，児に関すること，哺乳に関することの質問が多くみられた。乳房トラブルを訴えているケースでは，妊娠中より乳頭等に問題があり退院後も継続して follow していく必要があると思われる。訪問をするなかで，スタッフからも「育児に一生懸命な様子とともに，不安・疑問を多く抱えていると感じた」「退院時不安が大きかった人も，育児に自信がでてきた様子がわかる」「多くの疑問をなげかけてくれ，喜んでくれていることがうかがえる」等の意見が聞かれた。電話訪問は継続看護においての有効な方法である。しかし実施していく上では，電話をする時間帯・対象など今後検討を有すると思われる。

1か月健診時の面接にての問題では，湿疹・汗疹・おむつかぶれが多く，また冬期には鼻閉に関して，最近は汗疹についての質問が聞かれ，季節に応じた指導も大切であることを感じた。また体重増加については，一般に20～30g／day といわれているが，平均40g／day 以上の増加がみられている。しかし，なかには7 g／day の様なケースもあり継続した followが必要であった。乳房に関する問題はもっと多いのではないかと予測されたが，意外に少なかった。これは児の1か月健診の場であったためとも思われる。

これらの症例・調査より妊産婦は，妊娠・分娩・育児と多岐にわたるニーズを持っており，こちらから手をさしのべれば喜んで自らのニーズを訴えてきていることがわかる。少しでもそのニーズを把握し，継続した援助ができるようにと，現在助産婦カルテを作成し使用しはじめたところである。まだプレテスト的な段階で，形式・内容・使用方法など今後さらに検討しなければならないが，充実させていきたいと考えている。

Ⅶ おわりに

妊産婦のかかえている問題には，個人差がありさまざまであることが明らかになった。そのなかで，個々を十分に把握した継続性のある援助が必要であることを再確認した。しかし，三交替のなかで継続症例をもつことは難しく負担も大きい。

施設内でいかに継続した援助を行っていくかが，今後の大きな課題である。今回その取り組みの1つとして，助産婦カルテを作成したが，さらにその内容の充実と改善のための検討を重ね，より良い援助ができるよう努力していきたい。

最後に，この研究にあたり御協力頂いた妊産婦・小児科外来の皆様に深謝いたします。

参考文献

1）母子衛生の主なる統計，母子衛生研究会，1986，P 22
2）山内幸子他：受持制母児看護の評価〈第16回日本看護学会集録（母性看護）〉，日本看護協会出版会，1985，P 44～46
3）岩井夏子他：助産婦カルテを作成して－妊産褥期及び1か月検診の保健指導を加えて－〈第14回日本看護学会集録（母性看護）〉，日本看護協会出版会，1983，P 78～82
4）杉原和子他：退院後の褥婦の訴えに関する一考察，－電話訪問を試みて－〈第14回日本看護学会集録（母性看護）〉，日本看護協会出版会，1983，P 82～87
5）堀田初江：継続看護を実現するための条件づくり，助産婦雑誌，医学書院，1987，第41巻4号，P 20～25

〔資料1〕

氏名　　才　　妊　産　　予定日

Hbs 抗原　　抗体　　Wa 氏

同居家族　　職業　本人

夫

分娩前住所　　自宅　　実家　　夫の実家

産褥時の住所

項　目	月／日	記事　sign
妊娠届妊娠用紙		
母子健康手帳診察回数		
着　　帯		
身体・口腔の清潔		
つわりの指導		
流・早産予防		
動　　静		
睡　　眠		
栄　　養		
乳房の手当て		

新生児用品の準備

下肢の浮腫・静脈瘤等

分娩の計画・場所

呼吸法・補助動作

分娩の準備（用品・手伝い・上の子）

貧　　血

中　毒　症

骨　盤　位

入院の時期

産後1ケ月　　体重　　kg　　Bp　　尿タンパク　　糖　　浮腫

オロの状況

乳房の状況

トラブル

母乳状況　　母乳のみ　　Milk　　ml　　回／日

児の1ケ月検診　　スミ　　未　　体重　　g

〔資料2〕　　継続症例

年齢	初経産	分娩様式	家庭訪問	産後の妊産婦の評価
34	初	正常	有	そばにいてもらうと痛みが軽減した。
32	初	正常	有	心強かった。何かあったらいつでもおしえてもらえると思った。
33	経	正常	有	そばにいてもらい，おだやかに分娩できた。
29	経	正常	有	はげましてもらったおかげで分娩ができた。
27	初	正常	有	そばにいてもらい陣痛もまぎれ心強かった。
31	経	正常	有	心強く安心できた。
30	経	正常	無	何でも聞けると思い安心できた。
29	初	正常	無	声をかけてもらえることが，うれしかった。
29	初	正常	無	顔を見ると安心した。
33	初	正常	有	顔を見て安産できるとおもった。これからも何でも聞きたい。
35	経	正常	有	相談ができて安心。今回は育児ノイローゼにならなくてすみそう。